

上顎洞内への2つのバルン留置が
有効であった
眼窩壁吹き抜け骨折症例

上越総合病院耳鼻咽喉科
五十嵐良和

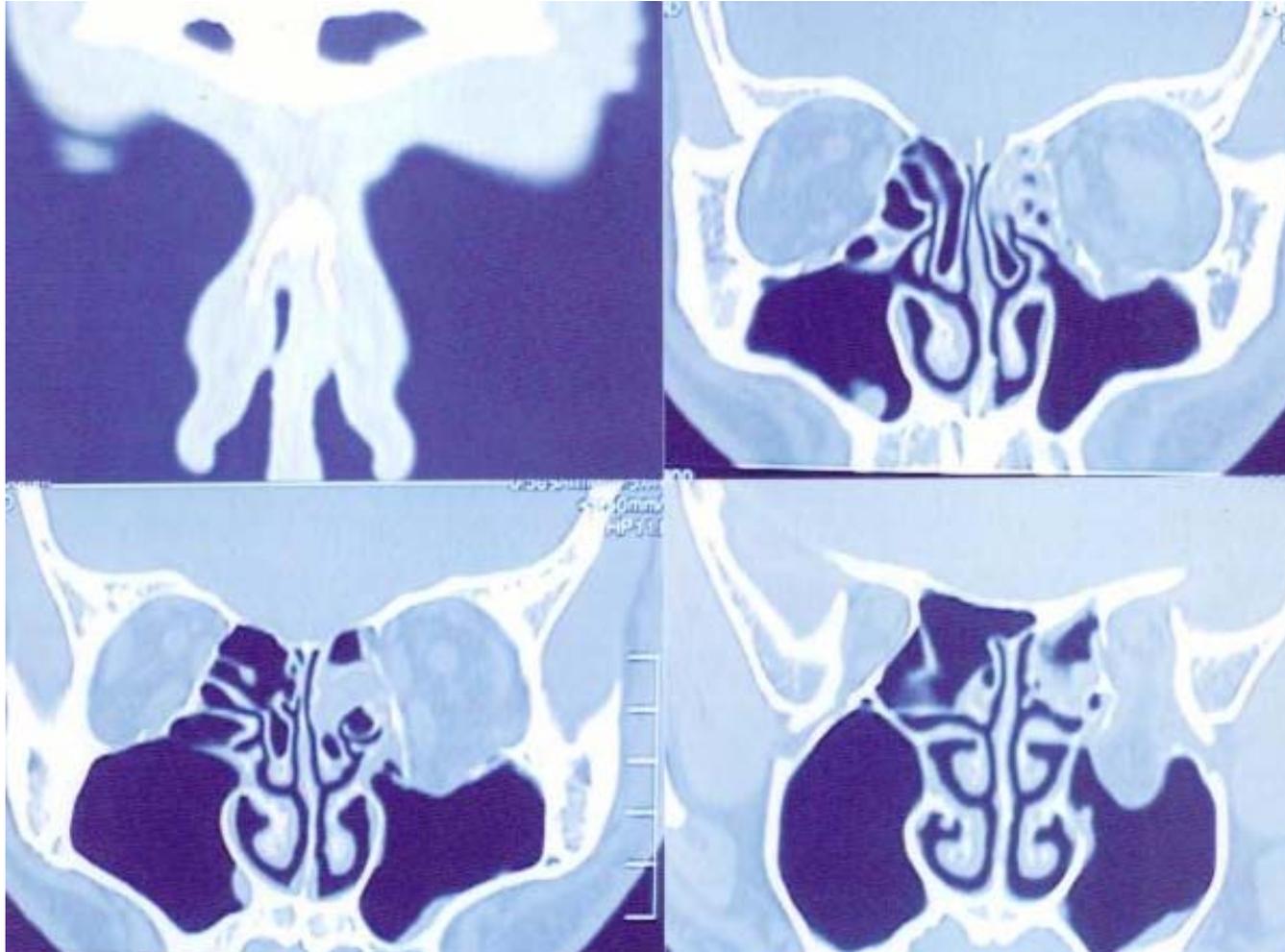
症例 52歳 男性

約3メートルの高さから転落し左顔面を打撲
他院で皮膚縫合を施行。

左方視と下方視で複視あり
左眼窩壁骨折を指摘され
治療目的に当院へ紹介。

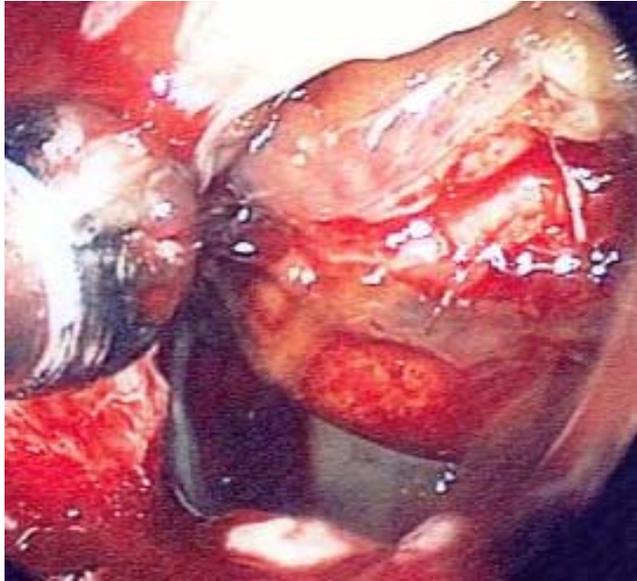


初診時CT



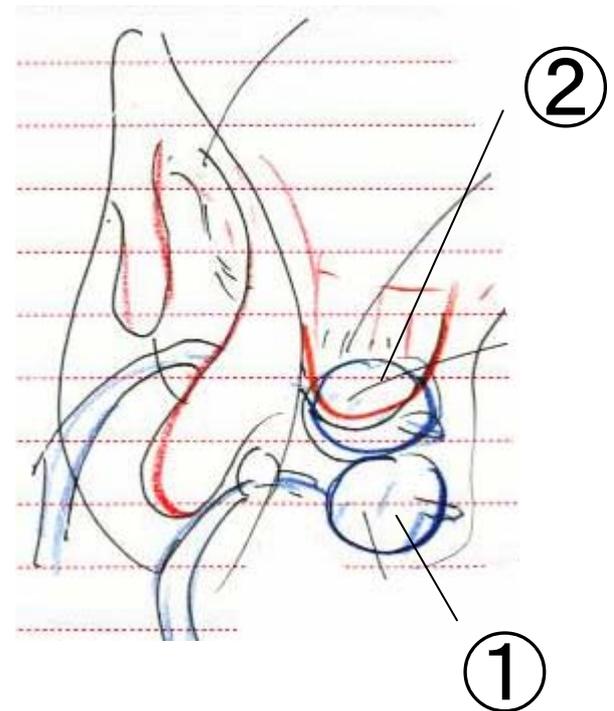
鼻骨骨折、眼窩内下壁骨折、眼窩内容落下を認める

手術

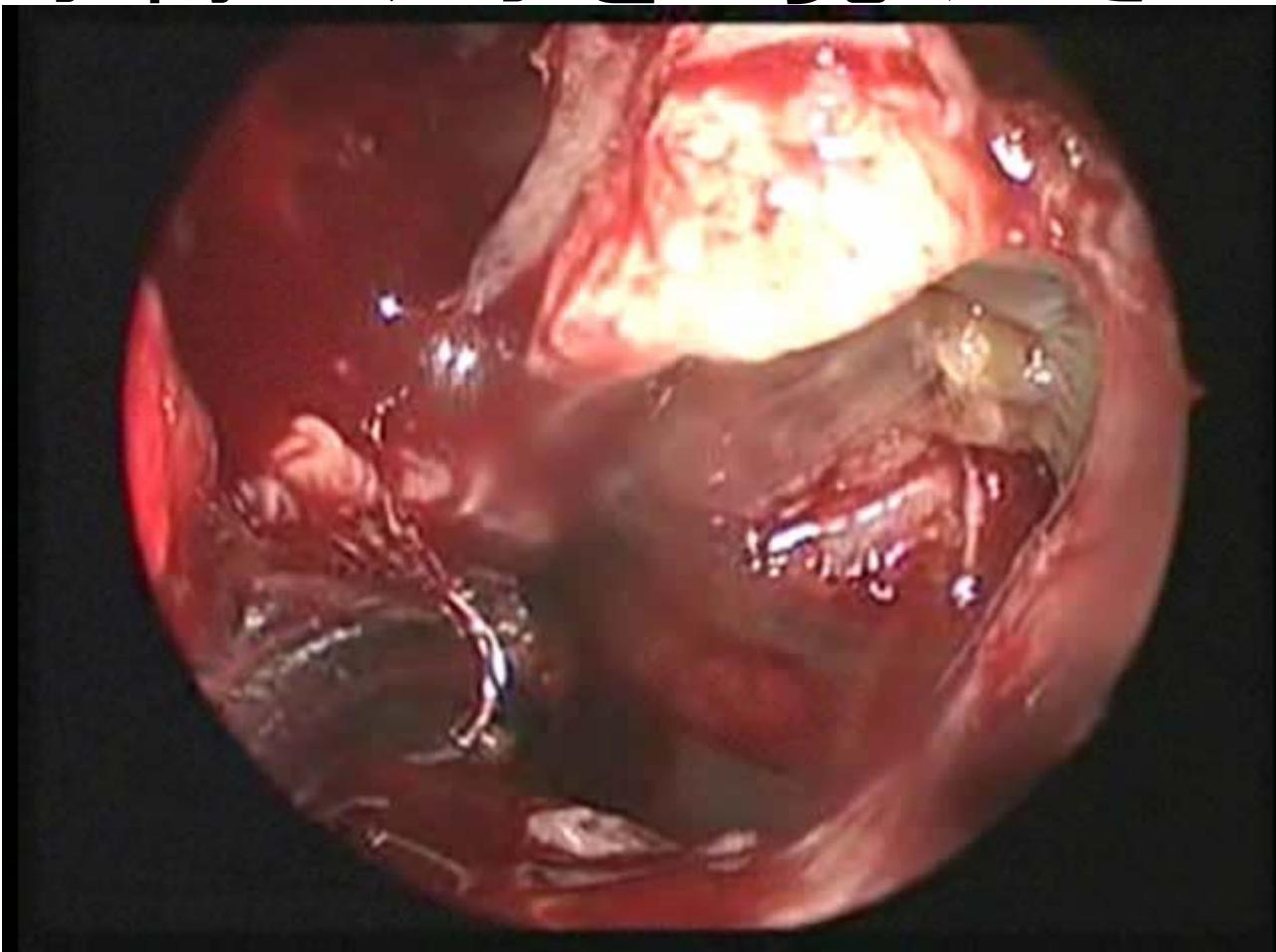


鼻内アプローチにより
上顎洞自然孔を開放
洞内に落下した眼窩内容を確認

下鼻道対孔から
上顎洞内へバルン①を留置
(8Fr8ml)したが役不足。
バルン②を自然孔より追加
(10Fr10ml)
ちょうどよい矯正となった

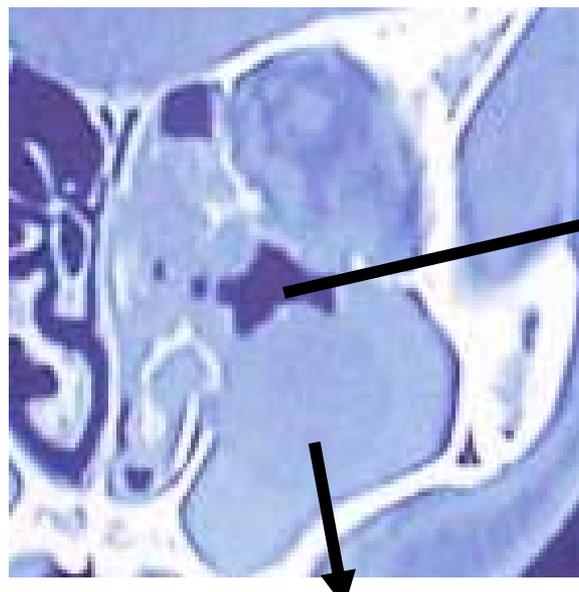


手術ビデオをご覧ください



術後経過

術後2日目、自然孔からの挿入バルンが破裂
しかし、CTで眼窩内容の再落下がないことを確認
その後、対孔から挿入したバルンも抜去



残ったバルン

術後内視鏡所見

今回の経験から得られたこと

- バルンカテーテルをもちいて鼻内アプローチで眼窩吹き抜け骨折を矯正する場合、ひとつのバルンでは役不足のことがある。
- この際、2つのバルンを用いることが有効であることを経験できた。
- バルンによる圧迫は2日間だったが、眼窩内容が最落下せず矯正が維持された。(短くとも大丈夫??ラッキーなだけ??)